

# 平成 28 年春の 小田原城歴史散歩レポート

浅見 実

★4月2日（土）、小田原の地は、花ぐもりの暖かい陽気の絶好のハイキング日和であった。厳しくて寒かった冬は遠ざかっていた。歴史散歩参加者は21名、久々の盛況であった。今日は毎年恒例の当会春の歴史散策日である。散歩には参加されなかったが、小田原在住の小野田佐賀枝さんもお元気な姿を見せられた。実質22名となり大変嬉しかった。

この2年間は、島口さんの案内で、古くは相模川水運河港として、また矢倉沢往還の宿場町としても栄えた交通の要所厚木の町の歴史散策が続いた。そこでも自分の知らない相模の国の北部の様子をいろいろと見てきて納得できたことがいくつもあった。

今回は、竹村理事の企画・監修による相模国中心都市、城下町・宿場町小田原の探索であった。何とメジャーな場所のイベントであろう。期待は大きかった。いつものように、集合予定時間の1時間も前から集合場所のJR小田原駅に来たものも何人もいた。

★土曜日と桜の花の開花が重なり、小田原の町は人が多かった。とくに小田原城址公園では大勢の人でごった返していた。ここには何回いや何十回も来たことがあるが、これほどの人混みは見たことがない。海外各国からの観光客も多かったようだ。しかしながら、お目当ての天守閣への入場は工事のため今月いっぱいはいれない。白く綺麗に塗られた壁がひととき眩しかったが……。更に桜の花の開花状況も、当地は5分咲きから6分咲きといったところであった。満開ではなかったが気分は盛り上がった。藤沢や戸塚はほぼ満開であるのに、小田原は湘南の地でも箱根に近く気温が低いのかもしれない。城址には動物が依然として飼育されており、今は猿が何匹か檻のなかを走り回っていた。更にはその前にある無料で入れる郷土文化館には、北条五代の豊富な資料の展示があり見ごたえがあった。解説を全部読んでいくと、限られた時間ではとても足りない。こういうものは今まではなかなか見られなかった。「甲冑・忍者の館」では貸衣装があり有料で借りて、家族写真に修まっている人も多かった。しかし、女性の打掛けの衣装ではあのようなものを、はたして当時着ていたかどうか自分には疑問に思えたが。

丁度、昼食の時間となり、自由に食事をとった。たまたま城址内広場では、小田原が蒲鉾の代表的な産地でもあるので、おでんサミットが開かれており、日本全国の有名おでんが食べられたらしいが、あいにく自分は藤沢のスーパー「クイーンズ伊勢丹」で弁当を買ってきていたので、そこに食べに行く機会はなかった。

★隣の「報徳二宮神社」では、国際結婚式の集合写真の撮影の場に出会えた。新郎は、まわりの人々が聞き取り易い英語を話していたので、多分アメリカ人で、一方の新婦は白い花嫁衣装に身を包んだ日本人であろう。ゲストも半分は欧米人であり、華やか雰囲気が漂っていた。水の澄んだ池のなかで祝福している金色のあるいは赤い鯉の泳ぐさまもゆったりとしてのどかだった。二宮金次郎の銅像が

ここにもあった。薪を背負い歩きながら読書をしている姿である。しかしながら、最近ではスマホを操作したりしての交通事故が危ないので、これまでと異なり座らせて読書をしている新しい像が、別の地には造られているらしい。何処であるかは確認していないが。

★室町時代から続いている「ういろう」の老舗にも行った。菓と和菓子が売られている。明治18年に建造された蔵を利用した博物館の展示品を拝見した。ここでの説明は山内理事の独壇場であった。ういろうと明治時代の小田原の情勢について、詳細にして平易な解説があった。知らないことが多くて大いに参考になった。大正12年の相模湾を震源地とする関東大震災では、小田原の町は壊滅した。この蔵を残して。また、終戦の日の昭和20年8月15日、B29爆撃機により小田原の町が空襲されたこと等々。その日の前に終戦になっていたら、小田原の町の空襲はなかったのである。

★ここまで歩いた小田原の町は観光客であふれていた。でも、我々歴史を愛するものが訪れた場所は、いずれもマニアックなスポットばかりである。例えば、小田原駅の近くにある悲しくて涙なしでは語れない北条五代の終焉を告げた場所である「北条氏政・氏照の切腹場所」には、他の観光客は誰もいない。狭い敷地のなかにあったがよく整備されていた。一方、城主の変更は何度かあったが、江戸時代に城主となった大久保氏一族の墓所がある「大久寺」は広い大きな寺であった。ここは日蓮宗の寺である。自分は以前に立正大学関連の業務をしたことがあるので親しみを覚えた。また、三浦氏ゆかりの「居神神社」にも行ってみた。興味深いことに祭神のひとりは、木花咲邪姫命である。数年前鹿児島に行ったときに、いくつか姫の伝説の地を訪れたときのことが思い出された。容色美麗であり燃え盛る炎のなかで無事に出産を終えたが、寿命は短かった。同時に富士山の神でもあるという。

★明治20年代に、小田原を通らずに国府津・沼津間の御殿場線を通る東海道線が開通した。それほど箱根の山は越えるのに厳しかったのである。そのときに、神奈川県西部の大都市は寂れてしまうと大騒ぎになった。その間ここをローカル線が走ったが、便が悪くて、30数年後の大正年間に丹那トンネルが完成して、やっとのことで東海道線が小田原を通るようになって、町の人々はほっとしたという。

★小田原の歴史には皆とにかく詳しい。竹村理事の他にも山内理事、持田さん、その他横山事務局長、小嶋顧問等々。大いに勉強になった。

★夕刻からの二次会は、参加者19名で小田原駅前の居酒屋「魚民」であった。延々と3時間近く、皆歴史を語り出したら止まらない。小田原のビールも焼酎も美味であった。あらかじめ決めておいた予算も大幅に超過してしまい、幹事であった自分は大いに責任を感じている。宴の終了後、夜の小田原の町を徘徊して飲み直しに行ったもの、奥さんへの土産を買いに行ったもの、ばらばらの流れ解散となった。